

進駐軍と奈良

昭和20年代前半

写真提供：猪原由香氏よりアルバム寄贈

通訳をしていた奈良の進駐軍関係者が撮影進駐軍

奈良県立図書情報館所蔵

「台帳番号 9348 進駐軍アルバム」戦争体験文庫
の非図書資料より



毎日新聞 奈良版 令和2年(2020)8月20日(木)掲載 戦後75年 「奈良のシカ密漁の歴史」

奈良のシカ密猟の歴史

戦時に横行、79頭に激減

戦後75年

迎えたことは、現在の平和な光景からは想像しがたい。「奈良のシカ」の歴史に詳しい、奈良教育大の渡辺伸一教授(社会学)と奈良女子大の佐藤宏明准教授(生態学)の考察を交えて当時を振り返った。時は春日大社(奈良市)が創建された奈良時代(さかのぼる。春日大社には、平城京を守るために鹿嶋神宮(茨城県鹿嶋市)から同大社の祭神「武甕

奈良 奈良公園(奈良市)の象徴でもある国の天然記念物「奈良のシカ」。古来、神の使い「神鹿」としてあがめられてきたが、戦中・戦後は食糧難のため密猟や乱獲が横行、絶滅の危機を

迎えたことは、現在の平和な光景からは想像しがたい。「奈良のシカ」の歴史に詳しい、奈良教育大の渡辺伸一教授(社会学)と奈良女子大の佐藤宏明准教授(生態学)の考察を交えて当時を振り返った。時は春日大社(奈良市)が創建された奈良時代(さかのぼる。春日大社には、平城京を守るために鹿嶋神宮(茨城県鹿嶋市)から同大社の祭神「武甕



鹿に餌を与える女性。戦後間もない時期(昭和20年代)に米国人が奈良市内で撮影した—県立図書情報館提供

傷禁止区域」を設定していたが、飢えをしのぐため、密猟・乱獲が横行したという。渡辺教授によると、戦前に公園周辺に約900頭いたとされる鹿は、戦後間もなく1割以下の79頭まで激減。「全てが狩猟されたわけではなく、猟銃で撃

たれる仲間を見て春日山や市外に逃走し、戻って来なくなった鹿も相当数いたのでないか」と指摘する。事態を重く見た「奈良の鹿愛護会」(1947年に春日神鹿保護会から改称)は、鹿の保護育成に取り組み、55年には378頭まで回復させた。雌鹿は環境が良ければ、ほぼ毎年子どもを1頭生む。佐藤准教授は「鹿の繁殖力の高さと保護活動が掛け合わさったからこそ、飛躍的に頭数を伸ばすことができた」

と分析する。その後も頭数を増やし、国の天然記念物に指定された57年以降は、大きく頭数を減らすことなく推移。今年7月現在、1670頭(愛護会調べ)が生息している。野生動物でありながら、「神鹿」という宗教的価値や観光資源としての経済的価値などを併せ持ち、独特の存在感を放つ「奈良のシカ」。渡辺教授は「当時の深刻な食糧難を伝える史実として、今後も語り継いでいかなければならない」と話している。【加藤佑輔】

たれる仲間を見て春日山や市外に逃走し、戻って来なくなった鹿も相当数いたのでないか」と指摘する。事態を重く見た「奈良の鹿愛護会」(1947年に春日神鹿保護会から改称)は、鹿の保護育成に取り組み、55年には378頭まで回復させた。雌鹿は環境が良ければ、ほぼ毎年子どもを1頭生む。佐藤准教授は「鹿の繁殖力の高さと保護活動が掛け合わさったからこそ、飛躍的に頭数を伸ばすことができた」